

## 職員からのメッセージ



後藤 喜彦（地域スポーツ振興部 戸塚スポーツセンター副所長）

### 1. 現在の私の仕事

- 私が所属する戸塚スポーツセンターは3つの体育室および研修室、トレーニング室を保有する施設で、私は日々の施設運営と管理に携わっています。担当業務として、子どもから高齢者を対象にしたスポーツ教室を企画しています。年に1回実施する「横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバル」は、区民が約2,000人参加するイベントで、サークルの発表会やヨコハマさわやかスポーツ体験コーナーなどを施設全体で実施しています。

### 2. 仕事のやりがい

- スポーツや運動を通して、間近で利用者の方の笑顔を見ることがやりがいであり、スポーツセンターで働く魅力でもあります。また、スポーツセンターとして地域イベントに出向き、市民の皆様とスポーツを通じて絆を作ることが皆様の健康づくりにとても大切なので、誇りを持って業務を行っています。



近 佑治（マラソン推進部 担当課長）



### 1. これまでのキャリア

- 小さいころから体を動かすことが好きで、様々なスポーツを行ってきました。生活の中にスポーツがあることが当たり前で、大学ではスポーツを活用したまちづくりについて学んできました。卒業後には、主に取組んできた野球を通して諸外国での経験を積み、同時にその環境におけるスポーツ振興を見てきました。帰国後にスポーツで培った経験を活かし、自分自身を成長させてくれたスポーツの仕事に就けたらと思い、念願のスポーツにかかわる現職に就くことができました。入社後は、学生時代に学んできた地域スポーツの振興からはじまり、スポーツ施設管理や子どもから高齢者までの運動指導を行い、平成28年度よりマラソン推進部担当課長となり現在に至ります。

### 2. 仕事のやりがい

- 横浜市最大規模のスポーツイベントである『横浜マラソン』を成功させる—それが私の今の役割です。主な業務は、大会の企画はもちろんのこと、大会までのイベント企画や大会にご協力いただくスポンサーの獲得、運営に欠かせないボランティアの募集・育成などです。今までの業務は、地域の皆様と協力してまちの活性化を図ることやスポーツをする環境を提供することでしたが、現在は、そんな過去の経験を総合した大きな事業を担っています。一口にスポーツの仕事とは言え、当協会の業務は多岐にわたります。スポーツという力を活かして、それぞれのセクションで与えられた役割をこなすことで、地域の皆様やお客様が笑顔に、そして健康になっていく様子を肌で感じてきました。そして同時にたくさんの『ありがとう』を頂いてきました。この様子や一言にやりがいを感じ、スポーツで元気な横浜を目指し、スポーツがもっとも身近になるように取り組んでいます。



## 菊川 大輔（診療部 リハビリテーション科）

### 1. 現在の私の仕事

- i** 日産スタジアム内にある、横浜市スポーツ医科学センターのクリニックで、スポーツ選手のリハビリテーションを行うことが私の仕事です。クリニックのリハビリテーション科には、小学生からプロアスリートまで多くのスポーツ選手が治療に訪れます。選手の怪我の治療、再発予防、パフォーマンスの向上のために理学療法士の専門性を活かしてサポートしています。また、当センターは日産スタジアムを本拠地とするプロサッカーチーム、横浜 F・マリノスと覚書を交わしており、試合の開催日にはトレーナーとして派遣され、選手のリハビリテーションや練習前後のケアを行っています。その他、横浜市内で開催される各種スポーツイベント（横浜シーサイドトライアスロン・横浜マラソンなど）の会場に出張し、選手の身体機能の相談やトレーニングのアドバイスも行なっています。

### 2. 仕事のやりがい

- i** 横浜市スポーツ医科学センターのクリニックでは、日々様々なスポーツ選手が数多く受診し、他では得られない貴重な治療経験が得られます。また、クリニック業務に加え、プロスポーツチームや国際大会等でもサポートをさせて頂く機会があり、それらの多様なフィールドで対応した選手に「良いパフォーマンスが発揮できた…」と報告を頂く際に強いやりがいを感じます。



## 武ノ内 由紀子（スポーツ事業部 スポーツ・レクリエーション担当課長）

### 1. これまでのキャリア

- i** スポーツの指導者になりたくて、平成 10 年に嘱託職員として入社し、横浜国際プールの施設オープンに携わりました。日産スタジアムでは、ボランティアの運営や施設の広報・2002FIFA ワールドカップ TMJAWOC 横浜支部のメディア担当サポートなどを行いました。その後、スポーツセンターや地域のスポーツ活動を支援する業務に携わる中、スポーツイベントに魅力を感じ自ら企画運営に携わりたくスポーツ事業課への配属を希望し、平成 20 年からスポーツイベントの企画運営の業務に就くことができました。その後、平成 22 年に固有職員となり「ITU 世界トライアスロンシリーズ横浜大会」の大会運営全般及びボランティアやスタッフ運営、輸送宿泊や物資輸送計画などの企画運営を行う事務局担当を約 7 年間行いました。そして管理職となった現在は、世界大会での経験を活かし職員と一緒に市民スポーツの情報発信や競技スポーツの支援、次世代を担う子どものスポーツ事業などの企画・運営を行っています。

### 2. 仕事のやりがい

- i** 事業やイベント・大会を成功させるためには、一人ではできません。また、参加者は元より事業に関わる誰もが「いいね！」と思えることを形にすることは簡単なことではありません。さまざまな業種の方々やボランティアとの情報交換や運営方法を議論し、意見をぶつけ合いながらアイデアなどを広げ、より良い企画・運営を組み立てる過程は難しい事もあります。しかし、多くの方々と一緒に作り、選手や参加者、事業に関わった方々の楽しそうな笑顔や「ありがとう」をいただいたときは、大変だったことなど忘れてしまうほどやりがいを感じます。さらに「スポーツを始めるきっかけとなった」などの声をもらった時は本当にうれしいです。



**山口 義彦 (技術監理部 担当部長)**



## 1. これまでのキャリア

大学では、造園学科で都市公園や庭園の設計・維持管理について学びました。大学卒業後、ゴルフ場を運営する企業に就職し、芝生や樹木などの管理責任者であるグリーンキーパーとして10年間業務に携わりました。この経験を活かして、更にキャリアアップしたいと思い、2002FIFA ワールドカップ<sup>TM</sup>の決勝戦会場である日産スタジアムの芝生管理を始めとした新横浜公園の平成11年度技士募集試験に応募して横浜市体育協会（現 横浜市スポーツ協会）に転職しました。新横浜公園では、日産スタジアムの芝生を始め、公園内の樹木類の維持管理、環境学習を行い、施設係、事業課を経て現在に至ります。

## 2. 現在の仕事

私は公園管理局技術監理部の管理職として新横浜公園及び三ツ沢公園の「スポーツターフ」を中心とした芝生や樹木、花などの管理や、公園内で市民のみなさんが行う環境活動のお手伝いなどを総合的にマネージメントしています。植物は、私たちと同じように生きているので日々変化します。特に競技用の芝生「スポーツターフ」に関しては、サッカーやラグビーなど激しいスポーツの選手の足元を支えるデリケートな環境での生育が求められるため、試合に向けて最適な状態となるように、毎日定期的な巡回による観察を行っています。その結果を踏まえて、的確な管理作業について職場内で検討し、管理作業計画を作成のうえ、作業が確実に行われているかを確認しながら点検、指導することをライフワークとしています。また、芝生の状況や作業状況などを記録し、報告書として残すことも日々の仕事として重要な作業です。

## 3. 仕事のやりがい

新横浜公園は横浜市内最大の運動公園で、その中心には、日本一の収容人数を誇り、2002FIFA ワールドカップ<sup>TM</sup>やラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>の決勝戦会場である日産スタジアムがあります。Jリーグの1チームである横浜F・マリノスのホームスタジアムでもある日産スタジアムは、日本代表戦や国際大会にも使用されます。一流選手から市民まで幅広いニーズに応えられるよう常にベストな状態に整えるため、芝生の観察がライフワークです。すべては使う人のため・選手のために—これが我々の目標であり、感動の舞台を支えているという想いがやりがいとなっています。